



2023

6

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2023

2023シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten

マルハニ

LOTTE

ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第155回東京オペラシティ定期シリーズ

6月23日(金) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第986回オーチャード定期演奏会

6月25日(日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第987回サントリー定期シリーズ

6月27日(火) 19:00開演 サントリーホール

6/23

6/25

6/27

指揮：尾高忠明

ピアノ：亀井聖矢*

コンサートマスター：近藤 薫

尾高忠明：オーケストラのための『イマージュ』(約10分)

〈ラフマニノフ生誕150年〉

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 Op. 18* (約35分)

- I. モデラート
- II. アダージョ・ソステヌート
- III. アレグロ・スケルツァンド

－ 休憩 (約15分) －

ラフマニノフ：交響曲第1番 二短調 Op. 13(約44分)

- I. グラーヴェーアレグロ・マ・ノン・トロツポ
- II. アレグロ・アニマート
- III. ラルゲット
- IV. アレグロ・コン・フォーコ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等創造支援事業(創造団体支援))

独立行政法人日本芸術文化振興会(6/27)

協力：Bunkamura(6/25)



- ♪ 本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
- ♪ 演奏中のご入場は、かたくお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
- ♪ 曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
- ♪ 演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
- ♪ 演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

出演者プロフィール



©Martin Richardson

指揮

尾高忠明

Tadaaki Otaka, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 桂冠指揮者

1947年生まれ。国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、BBC交響楽団、ベルリン放送響など世界各地のオーケストラに客演。1991年度サントリー音楽賞受賞。1997年には英国エリザベス女王より大英勲章CBEを授与された。その他1999年には英国エルガー協会より日本人初のエルガー・メダルを授与されたほか、1993年ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員の称号、ウェールズ大学より名誉博士号、2012年有馬賞（NHK交響楽団）、2014年北海道文化賞、2018年度関西音楽クリティック・クラブ賞本賞、大阪文化祭賞、日本放送協会放送文化賞、2019年第49回JXTG音楽賞洋楽部門本賞等を受賞。2021年秋旭日小綬章を受章。

現在NHK交響楽団正指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団桂冠指揮者、札幌交響楽団名誉音楽監督、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団名誉客演指揮者、紀尾井ホール室内管弦楽団桂冠名誉指揮者。「東京国際音楽コンクール＜指揮＞」審査員長。また複数の大学で後進の指導を積極的に行っている。

6/23

6/25

6/27



©T. Tairadate

ピアノ

亀井聖矢

Masaya Kamei, piano

2022年、ロン＝ティボー国際音楽コンクールにて第1位を受賞。併せて「聴衆賞」「評論家賞」の2つの特別賞を受賞。2001年生まれ。4歳よりピアノを始める。2019年、第88回日本音楽コンクールピアノ部門第1位、及び聴衆賞受賞。第43回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、及び聴衆賞受賞。2022年、マリア・カナルス国際ピアノコンクール第3位受賞。ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールセミファイナリスト。これまでに、N響、読響、東響、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、東京シティフィル、関西フィル、京響など、国内の主要オーケストラと共演。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK「クラシック倶楽部」などメディア出演も多数。これまでに、青木真由子、杉浦日出夫、上野久子、岡本美智子、長谷正一の各氏に師事。愛知県立明和高等学校音楽科を経て、飛び入学特待生として桐朋学園大学に入学し、2023年3月に同大学を首席で卒業。2023年には、文化庁長官表彰（国際芸術部門）、出光音楽賞、岐阜県芸術文化奨励賞、愛知県芸術文化選奨文化新人賞を受賞。2021～2022年度公益財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生。第51回公益財団法人江副記念リクルート財団奨学生。

楽曲紹介

解説＝林 昌英

尾高惇忠

オーケストラのための『イマージュ』

作曲家・尾高惇忠(1944-2021)は、東京藝術大学からパリ国立高等音楽院に学び、帰国後は作曲のほかピアニスト・教授としても活躍した。父は作曲家・指揮者の尾高尚忠、母はピアニストの尾高節子、弟は本日の指揮者の尾高忠明。さらには曾祖父に渋沢栄一や同名の実業家・尾高惇忠。その家系には著名な文化人や実業家が並ぶ。

『イマージュ』は1981年民音現代作曲音楽祭のために書かれた、惇忠の最初の本格的な管弦楽作品。無調的ではあるが、緊張感の中に20世紀作品ならではのソノリティの美しさが光る、凝縮された一篇。

惇忠は作曲に対しては非常に慎重で、残された作品数も多くはない。マエストロ忠明のインタビューによると、『イマージュ』も難産で、初演直前には非常にナーバスになっていたという。もちろん初演は無事に成功して、翌1982年には父・尚忠の功績を記念して創設された「尾高賞」に本作が選ばれた。なお、初演を担当したのは本日と同じく、尾高忠明指揮の東京フィルだった。

【作曲年代】1980～81年 【初演】1981年5月30日、東京文化会館にて尾高忠明指揮、東京フィルハーモニー交響楽団による

【楽器編成】フルート3(3番はピッコロ持ち替え)、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3(3番はコントラファゴット持ち替え)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ティンパニ、打楽器(小太鼓、大太鼓、サスベンド・シンバル、タムタム、ヴィブラフォン、マリimba)、ハープ、チェレスタ、ピアノ、弦楽5部

ラフマニノフ

ピアノ協奏曲第2番 八短調 Op. 18

1897年の交響曲第1番初演が音楽史に残るような大失敗に終わり、大きな挫折を味わったセルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)。そこからしばらく作曲家と

してスランプに陥り、本格的な創作活動に戻るのはその3年後になるが、その間はオペラ指揮者として高評価を得て、後に世紀のバス歌手となるシャリアピンと出会って親友となり、大作家のチェーホフから温かい賞賛を受け、文豪トルストイとの面会ではなぜか説教をされるなど、多くの経験や親交を積み重ねていた。そして精神科医のニコライ・ダーリと出会い、1900年前半の数か月にわたって催眠療法を受けて良い結果を得た。この年に取り組んだのがピアノ協奏曲第2番で、同年にまず第2・第3楽章が作られて12月に先行初演。第1楽章も含めた全曲初演は1901年の秋、作曲者自身のピアノ独奏で行われ、大成功を収めた。本作は恩人ダーリに捧げられた。

ロシアの教会の鐘を模したピアノの和音による序奏から、オーケストラが重厚なテーマを奏でる名場面で始まる**第1楽章**。ロマンティックな旋律が胸に迫る、情感あふれる**第2楽章**。そして、舞曲的で前向きな第1主題と歌謡的な第2主題で展開していく**第3楽章**。終盤はピアノの煌びやかなパッセージと、雄大な第2主題の再現がクライマックスを作り上げる。

荒削りで先鋭的な第1交響曲と比べて、わずか3年後の第2協奏曲のこなれ方とポピュラリティは際立つ。それは妥協などではなく、気負いや背伸びもあった交響曲から、経験を積みつつ自分の強みを見つめ直した成果であり、万人に愛される作品を生み出せる自らの能力にも確信をもてたに違いない。

【作曲年代】1900～01年 【初演】1901年11月9日、モスクワにて、アレクサンドル・ジロティ指揮、作曲者自身の独奏による

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器（大太鼓、シンバル）、弦楽5部、独奏ピアノ

ラフマニノフ

交響曲第1番 二短調 Op. 13

幼少期からペテルブルク音楽院に入ったものの、指導法が合わずやる気をなくしていたラフマニノフは、12歳でモスクワに移り、名教師ズヴェーレフの厳しくもハイレベルな指導を受けて才能を開花。モスクワ音楽院ではピアノと作曲を学び、いずれも優秀な成績を取めた。1892年の作曲科卒業作品であるオペラ

『アレコ』はチャイコフスキーの絶賛も受け、卒業後は作曲家としても順調、交響曲の作曲に向けてステップを踏んでいった。

しかし、満を持して完成した交響曲第1番、1897年3月のペテルブルクでの初演は歴史的な失敗に終わった。作品自体に未熟さはあったとしても、その失敗ぶりは不可解なほど。理由は諸説あり、以前は初演指揮者を務めたグラズノフが無能、酒を飲んでいたなどの説明が主流だったが、新曲が多い演奏会で練習不足だったのは事実としても、無能とは別の話だし、飲酒説に至っては一方的で根拠に欠ける。それよりはペテルブルクとモスクワの音楽界の確執が一因だった可能性ははるかに高い。有り体に言えば、“ライバル都市に移って調子に乗っている若造が、挨拶もなしにペテルブルクに乗り込んでくる”という構図になってしまったのである。楽員のモチベーションは低下、有力者の視線は冷たく、中でも「ロシア五人組」の一員だったキュイは敵意むき出し、「地獄の住人を喜ばせる」というほぼ罵詈雑言の酷評はよく知られる。新進作曲家にとって、作品への正当な批判や演奏の問題はまだしも、自らへの過剰な悪意は想定を超えていたはずで、スランプに陥ったのも無理からぬことだった。

その後第1交響曲は封印状態になり、作曲者自身が再び聴くことはなかったが、1940年、最後の大作「交響的舞曲」第1楽章の結尾にその一節をしのばせた。それも聖歌のような形で。初演から40年以上を経た晩年、やっと心のつかえを浄化、昇華できたのである。なお、「交響曲第1番」としてスコアが復元されたのは1945年、ラフマニノフが世を去って2年後のことである。

●譜例1 交響曲第1番の主要主題(第1楽章冒頭)



●譜例2 「怒りの日(ディエス・イレ)」



交響的舞曲で引用した一節は、第1交響曲の主要主題(譜例1のB)。その最初の4音の音型は、ラフマニノフが生涯にわたり多用したグレゴリオ聖歌の「怒

りの日(ディエス・イレ)」(譜例2)の引用とも考えられてきた。本作作曲時に「怒りの日」そのものを想定していたかは議論の余地がある。ただ、少なくとも最初の4音の「元の音から下がって、戻って、また下がる」音型(跳躍幅は別として)に、作曲しやすいという感覚や愛着はあったはずで(例えば第2協奏曲第3楽章第1主題もこの上下の音型で始まる)、後の「怒りの日」の偏愛にも繋がっていく。

それにしても、第1交響曲はいま聴いても十分にユニークだ。調性は緊張感と不吉さのあるニ短調。**第1楽章**冒頭の「細かい3連符の前打音」(譜例1のA)は各楽章冒頭にも現れ、その直後の主要主題(譜例1のB)のモチーフは全曲の循環主題となり、全曲中に細かく執拗に張り巡らされていく。規模の大きいスケルツォの**第2楽章**、抒情的なラルゲットで甘美な旋律が美しい**第3楽章**を経て、**第4楽章**はさらに強烈。開始直後に主要主題がニ長調の大行進で現れ、ハイテンポな舞曲調の主部が盛り上がり続けると、終盤に一発の銅鑼(スコアの指示はメゾフォルテ)が世界を止める。最後は前打音モチーフによるフレーズが強迫的に繰り返される。フィナーレのデモーニッシュさは、さながら“ラフマニノフ版ワルブルギスの夜”で、「地獄の住人」の表現も、ある種しっくりくるほど。若き天才の情熱と才能が迸る、最高の野心作である。

【作曲年代】1895年 【初演】1897年3月27日、ペテルブルクにてアレクサンドル・グラズノフの指揮による

【楽器編成】フルート3(3番ピッコロ持ち替え)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タンブリン、小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム)、弦楽5部

はやし・まさひで(音楽ライター)／出版社勤務を経て、音楽誌制作と執筆に携わり、現在はフリーライターとして活動。「ぶらあぼ」等の音楽誌、Webメディア、コンサートプログラム等に記事を寄稿。オーケストラと室内楽(弦楽四重奏)を中心に執筆・取材を重ねる。2020年桐朋学園大学カレッジ・ディプロマ・コース音楽学専攻修了、研究テーマはショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲。

The 155th Tokyo Opera City Subscription Concert
Fri. June 23, 2023, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 986th Orchard Hall Subscription Concert
Sun. June 25, 2023, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

The 987th Suntory Subscription Concert
Tue. June 27, 2023, 19:00 at Suntory Hall

Tadaaki Otaka, conductor

Masaya Kamei, piano

Kaoru Kondo, concertmaster

Atsutada Otaka: Image for orchestra (ca. 10 min)

<The 150th anniversary of Rachmaninov's birth>

Rachmaninov:

Piano Concerto No. 2 in C minor, Op. 18 (ca. 35 min)

- I. Moderato
- II. Adagio sostenuto
- III. Allegro scherzando

— intermission (ca. 15 min) —

Rachmaninov:

Symphony No. 1 in D minor, Op. 13 (ca. 44 min)

- I. Grave - Allegro ma non troppo
- II. Allegro animato
- III. Larghetto
- IV. Allegro con fuoco

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |
 Japan Arts Council (June 27)
 In Association with **Bunkamura** (June 25)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

Artist Profile



©Martin Richardson

Tadaaki Otaka, conductor

Conductor Laureate of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

23
June

25
June

27
June

Born in 1947, OTAKA studied at Toho Gakuen School of Music under Hideo SAITO, a professor known for teaching Seiji Ozawa and Hiroshi Wakasugi. He then moved to Vienna to study with Hans Swarowsky and Spannagel. As Japan's leading conductor, OTAKA conducted all major Japanese Orchestras. He is also a popular figure throughout the world particularly in the UK, where he is invited as Guest Conductor to the London Symphony, London Philharmonic, BBC Symphony etc. He made his Proms debut with the BBC National Orchestra of Wales in 1988. He also received invitations to the Berlin Radio Symphony Orchestra, Bamberg Philharmonic and many others. In 1993, the Welsh College of Music and Drama conferred an Honorary Fellowship on OTAKA. He also holds an Honorary Doctorate from the University of Wales. In 1997, he was awarded the CBE, in recognition of his outstanding contribution to British musical life. He is also the first Japanese to receive the Elgar Medal in 1999, for his continuous efforts at spreading the works by Elgar outside the UK. In 2021, he received the Order of the Rising Sun, Gold Rays with Rosette.



©T. Tairadate

Masaya Kamei, piano

Born in 2001. Started playing the piano at the age of four. He has won many prizes at national and international competitions including 1st Prize and Audience Award at Long-Thibaud International Competition in France in 2022. He won the third prize at the Maria Canals International Piano Competition and was a semifinalist at the Van Cliburn International Piano Competition. 1st Prize and Audience Award at the 88th Japan Music Competition Piano Category, 43rd PTNA Piano Competition Special Grade Grand Prix and Received Audience Award, Minister of Education, Steinway Award, 9th Yasuko Fukuda Award, and others. Performed with the NHK Symphony Orchestra, Yomiuri Nippon Symphony Orchestra, Tokyo City Philharmonic Orchestra, Tokyo Philharmonic Orchestra, New Japan Philharmonic Orchestra, Tokyo Symphony Orchestra, Japan Philharmonic Orchestra, Osaka Symphony Orchestra, Kansai Philharmonic Orchestra, Kyoto Symphony Orchestra, Central Aichi Symphony Orchestra, Nagoya Philharmonic Orchestra, etc. He has studied under Mayuko Aoki, Hideo Sugiura, Hisako Ueno, Michiko Okamoto, and Shoichi Hase. After working at the Music Department of Meiwa High School in Aichi Prefecture, he entered Toho Gakuen University as a special student for admission. He graduated from Toho Gakuen School of Music in March 2023 at the top of the class.

Program Notes

Text by Robert Markow

Atsutada Otaka: Image for orchestra

Until his death two years ago, Atsutada Otaka enjoyed the position of being one of Japan's most highly acclaimed living composers. He came from a family of musicians – his mother was a pianist, his father Hisatada too was a composer, and his brother Tadaaki is one of Japan's busiest conductors. Otaka studied first at Tokyo University of the Arts (Geidai), where he learned composition from Akio Yashiro, Tomojiro Ikenouchi, and Akira Miyoshi, and piano with Kazuko Yasukawa. In 1966 the Japanese government granted him a scholarship to continue his training in Paris at the Conservatoire national supérieur de musique. There he studied with Maurice Duruflé, Marcel Bitsch, Jean-Claude Henri, and Henri Dutilleux. After returning to Japan he became a professor at Geidai, where he taught until 2011. His students included Jun'ichi Hirokami, who recorded the work on this program (*Image*) with the Malmö Symphony Orchestra in Sweden. The Tokyo Philharmonic has also recorded *Image* with Tadaaki Otaka conducting.

Atsutada twice won the Otaka Prize established by his father, who, in 1941, became conductor of the orchestra that would eventually morph into the NHK Symphony Orchestra. The Orchestra annually awards the Otaka Prize for a Japanese orchestral work. In Atsutada's case, these prizes went to his *Image* in 1982 and *Beyond Time* in 2012.

Images was commissioned by the concert association Min-on (full name Minshu Ongaku Kyōkai), which gave the first performance at the Min-on Contemporary Music Festival on May 30, 1981. The composer's brother Tadaaki, to whom *Image* is dedicated, conducted the Tokyo Philharmonic. The ten-minute work begins with a *fortissimo* “rap” for (nearly) full orchestra, but thereafter the music dissolves into subtly shifting diaphanous blocks of sound from the string section. Luminous, shimmering inflections from woodwinds, marimba, piano, and harp begin

23
June

25
June

27
June

to color the image, one that might at this point easily be taken to represent a painting by Monet, Seurat, or Signac. The orchestration becomes denser, brass and timpani spatter the score with violent outbursts, and we soon arrive at the first climax. Following a pause the music moves into a new phase characterized by greater rhythmic urgency, greater volume of sound, and kaleidoscopic orchestration. Tension grows, leading to the main climax, the only moment when Otaka uses the entire orchestra all at once. A brief, quiet epilogue brings *Image* to its conclusion.

ATSUTADA OTAKA: Born in Tokyo, March 10, 1944; died in Tokyo, February 16, 2021

Work composed: 1980-81 **World premiere:** May 30, 1981 at The Tokyo Bunka Kaikan, by Tadaaki Otaka and Tokyo Philharmonic Orchestra

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 3 oboes, 3 clarinets, 3 bassoons, (3rd doubling on contrabassoon), 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, timpani, percussion (snare drum, bass drum, suspended cymbal, tam-tam, vibraphone, marimba), harp, celesta, piano, strings

Rachmaninov:

Piano Concerto No. 2 in C minor, Op. 18

This concerto, one of the most popular and unabashedly romantic in the repertory, had a strange genesis. The harrowing experience of the utter failure of Rachmaninov's First Symphony in 1897 (see below) had plunged the composer into deep melancholy, and he shunned both the social and musical worlds. He finally consented to see a Dr. Nicolai Dahl, who had acquired a reputation for successfully treating nervous disorders through hypnosis and auto-suggestion. By inducing Rachmaninov to repeat over and over phrases such as "You will begin to write your concerto ... You will work with great facility ... The concerto will be of excellent quality ..." while in a hypnotic daze, the young composer's creative impulses were recharged. The second and third movements were ready for performance late in 1900, and the first complete performance took place about a year later. On both occasions, Rachmaninov was the soloist, and the conductor was his cousin and former teacher Alexander

23
June25
June27
June

Siloti. The score bears a dedication to the man who had made it all possible, Dr. Dahl.

The opening chords for the soloist have been described as a summation of all that is most noble in the piano. The violins give forth the broadly flowing first theme with the piano as accompaniment. The piano presents the warmly lyrical second theme in E-flat major. The second movement begins with sustained harmonies in the muted strings. As in the first movement, Rachmaninov is not averse to allowing the orchestra to present the first theme, here initiated by the flute, then carried on by the clarinet. The third movement, dramatic and colorful like the first, moves inexorably to its final pages and ends in a blaze of virtuosity.

SERGEI RACHMANINOV: Born at Oneg (an estate near Novgorod), April 1, 1873; died in Beverly Hills, California, March 28, 1943

Work composed: 1900-01 **World premiere:** November 9, 1901 in Moscow, conducted by Alexander Siloti with composer as the soloist.

Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (bass drum, cymbals), strings

Rachmaninov: Symphony No. 1 in D minor, Op. 13

Imagine for a moment that you are a highly gifted, 21-year-old composer flush with numerous early successes, brimming with confidence, already being published, proud possessor of the rarely conferred Great Gold Medal from the Moscow Conservatory, and enjoying the enthusiastic support of some of the most eminent colleagues in your profession. Your First Symphony, the work that will lend significant further luster to your name, is scheduled for its world premiere. This is the position in which Sergei Rachmaninov found himself in St. Petersburg on March 27, 1897. Then the bombshell dropped.

The performance was a disaster, and the symphony became what biographer Patrick Piggott called “one of music’s shipwrecks.” The composer Sergei Taneyev wrote that its “melodies are flabby, colorless –

there is nothing that can be done with them.” To another leading composer of the time, César Cui, “this music leaves an evil impression with its broken rhythms, obscurity, and vagueness of form, meaningless repetition of the same short tricks ...” Even Rimsky-Korsakov was heard to say, “Forgive me, but I do not find this music at all agreeable.”

Was the symphony really that bad? In a word, no. So what went wrong? From reports of the event, the orchestra was under-rehearsed, the score was riddled with cuts and errors, and it was led by an inebriated conductor, Alexander Glazunov. Adding to the problem of a disgraceful performance were novelties aplenty in this first symphony, music that strained to break out of the mold in which the genre had been steeped for over a century. Rachmaninov wove into this 45-minute, four-movement work an entire network of interrelated motifs. Each movement incorporates and further develops in new guises thematic material of previous movements. Another unusual aspect of the symphony is the prevalence of thematic material that sounds like chants taken from the Russian Orthodox liturgy.

Following the performance in St. Petersburg, Rachmaninov left the orchestral parts on the music stands and returned to Moscow with only the score. Although he always intended to revise the symphony and give it another chance, he never found the time to do so, effectively sending the work into hibernation for nearly half a century. When the composer left Russia in 1917, never to return, the score remained behind and has never been located. However, the orchestral parts did survive. They were discovered in 1945, collecting dust in the library of the Leningrad Conservatory, and from them a new score was assembled. On October 17, 1945, the second performance of Rachmaninov’s First Symphony was heard, 48 years after the premiere, in the Great Hall of the Moscow Conservatory with the USSR State Symphony Orchestra conducted by Alexander Gauk.

The symphony opens with a quick inverted turn of four notes, a unifying motif that will introduce all three succeeding movements as well and that will be heard frequently in all movements but the second. Immediately afterwards comes the heavy tread of the entire string section proclaiming the principal theme of the movement. This leads a moment later into the main *Allegro* section, where the theme becomes airborne

in the clarinet and afterwards subjected to developmental procedures. The solo clarinet takes the lead in announcing the second subject as well (“languorously chromatic and exotic,” in Piggott’s words). The development section takes off with a furious fugal treatment of the first theme, while the recapitulation brings back both themes in recognizable form though differently scored.

The second movement is characterized by an almost feathery lightness, much like the Scherzo of Tchaikovsky’s First Symphony (*Winter Dreams*) or the “Waltz of the Snowflakes” from *The Nutcracker*. Here, the portentous, chant-like main theme of the previous movement gives rise to a very different treatment of its general melodic outline – music of flowing grace and gossamer delicacy. A three-note horn call sounds frequently.

Over repeated reminders of the inverted turn, the *Larghetto* slowly unfolds with the solo clarinet (how Rachmaninov loved this instrument!) singing a long, lyrical melody of the kind that was later to become a hallmark of some of his most famous works, especially the Second and Third Piano Concertos and the Second Symphony.

The finale is predictably boisterous, imbued with vigorous dancelike rhythms and filled with the style of brilliant orchestration that looks forward to many later works. The movement also features another of Rachmaninov’s early examples of a long, rapturously soaring, intensely passionate melody for the violins. Fragments of melodic material from all the previous movements take part in a fiery display of orchestral splendor, a fitting conclusion to a young composer’s first essay in the genre.

Work composed: 1895 **World premiere:** March 27, 1897 in St. Petersburg, conducted by Aleksandr Glazunov

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, triangle, cymbals, tam-tam), strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

2023 season Subscription Concerts Lineup

"Alongside its overwhelming plethora of culturing offerings, the Japanese capital is host to several orchestras, the most prestigious among them being the Tokyo Philharmonic. This season combines venerable elder musicians with fiery young soloists and conductors" -- Bachtrack

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary of Japan's first symphony orchestra. Join us for the ultimate concert experience! Single tickets are now available.

July

conductor: Myung-Whun Chung, honorary music director

Single tickets available

Sun, July 23, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, July 27, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Mon, July 31, 19:00
at Suntory Hall

Verdi: opera *Otello* in concert style
Libretto by Arrigo Boito (in Italian), after Shakespeare.

Gregory Kunde, Otello
Atsuko Kobayashi, Desdemona
Dalibor Jenis, Iago
Hajime Aizawa, Lodovico
Francesco Marsiglia, Cassio
Ikuko Nakajima, Emilia
Toshiaki Murakami, Roderigo
Takashi Aoyama, Montano
Jumbo Tang, A Herald
New National Theatre Chorus

October

conductor: Chloé Dufresne violin: **Lina Nakano**

Single tickets available

Wed, Oct 18, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Thu, Oct 19, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Oct 22, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Lili Boulanger:
Of a Spring Morning <The 130th anniversary
of Lili Boulanger's birth>
Saint-Saëns: Violin concerto No. 3
Berlioz: Symphonie fantastique

November

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor cello: **Haruma Sato**

Single tickets available

Fri, Nov 10, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Nov 12, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, Nov 16, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Tchaikovsky:
The Tempest
Variations on a Rococo Theme
Hamlet
Romeo and Juliet Fantasy Overture
<The 130th anniversary of Tchaikovsky's death>

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: **03-5353-9522** (weekdays 10:00-18:00,
closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



東京フィルだより — 2023年シーズン今後の定期演奏会

7月の定期演奏会

第988回オーチャード定期演奏会

7月23日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

第156回東京オペラシティ定期シリーズ

7月27日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第989回サントリー定期シリーズ

7月31日(月) 19:00 サントリーホール

指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督)

オテロ(テノール): グレゴリー・クンデ

デズデーモナ(ソプラノ): 小林厚子

イアーゴ(バリトン): ダリボル・イエニス

ロドヴィーゴ(バス): 相沢 創

カッシオ(テノール):

フランチェスコ・マルシーリア

エミーリア(メゾ・ソプラノ): 中島郁子

ロデリーゴ(テノール): 村上敏明

モンターノ(バス): 青山 貴

伝令(バス): タン・ジュンボ

合唱: 新国立劇場合唱団

(合唱指揮: 富平恭平)

ヴェルディ/歌劇『オテロ』(オペラ演奏会形式)

全4幕・日本語字幕付き原語(イタリア語)上演

原作: ウィリアム・シェイクスピア『オセロー』/ 台本: アッリーゴ・ボーイト

公演時間: 約2時間50分(休憩含む)



チョン・ミョンフン

©上野隆文



グレゴリー・クンデ
©Chris Clog



小林厚子
©Yoshinobu Fukaya



ダリボル・イエニス

10月の定期演奏会

第157回東京オペラシティ定期シリーズ

10月18日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第990回サントリー定期シリーズ

10月19日(木) 19:00 サントリーホール

第991回オーチャード定期演奏会

10月22日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

指揮: クロエ・デュフレヌ

(2021年プザンソン国際指揮者コンクール聴衆賞、オーケストラ賞)

ヴァイオリン: 中野りな*

(2022年仙台国際音楽コンクール優勝)

リリ・ブーランジェ/春の朝に

(リリ・ブーランジェ生誕130年)

サン=サーンス/ヴァイオリン協奏曲第3番*

ベルリオーズ/幻想交響曲



クロエ・デュフレヌ ©Capucine de Choqueuse



中野りな ©kisakiimichiko

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

*東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時~18時/発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)



2022年10月定期でのヴェルディ最後のオペラ『ファルスタッフ』演奏会形式上演に続き、7月には“最後から2番目のオペラ”である『オテロ』を上演する
©上野隆文

7月定期演奏会は名誉音楽監督チョン・ミョンファンが最も得意とするオペラの一つ、『オテロ』を演奏会形式でお届けします。昨年10月定期演奏会では同じヴェルディの歌劇『ファルスタッフ』（演奏会形式）で大きな反響を呼んだマエストロが、その魅力を語りました。

『オテロ』に関して私は40年近くの長い歴史があります。

ヴェルディの最後の二つのオペラがこんなにも異なっているというのは驚くべきことです。『オテロ』は情熱と肉体的な強靱さに満ちていて、ヴェルディが70代でこの作品を書いたという点でも驚くべきことです。これは言ってみればオペラ音楽の山頂でもあります。もちろん、それらを結び合わせたのはシェイクスピアと、ヴェルディのシェイクスピアへの愛なのです。

ヴェルディは、いつも、自分にひらめきを与えてくれる台本とテキストを必要としていました。これは、ひとつのオペラが何か特別なものを生み出すためには、とても多くの要素が結び合わされなければならないということの一例です。

そして、シェイクスピアとヴェルディのコンビネーションは、大変に特別なものだと思います。

オテロ役の名テノール、
グレゴリー・グンデからのメッセージ

マエストロ チョン・ミョンフンとの 『オテロ』に寄せて

7月定期演奏会ヴェルディの『オテロ』で題名役オテロを歌うのは世界的な名テノール、グレゴリー・グンデ。世界から引っ張りだこの偉大なテノールが、本公演に向けてメッセージを寄せてくれました。

©Chris Gloag

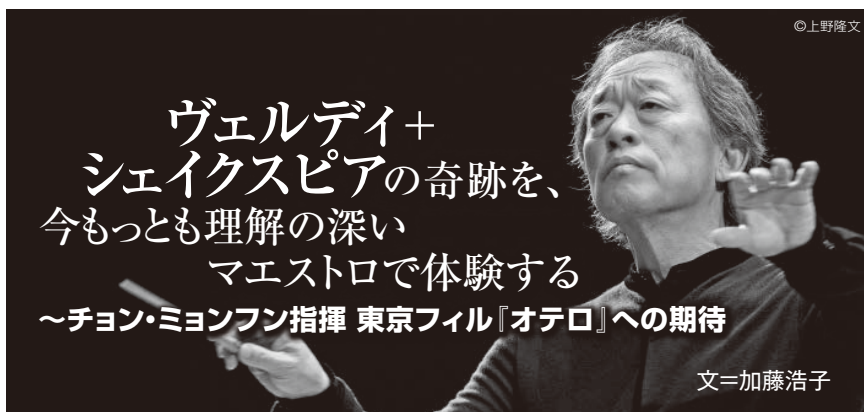
この7月、ヴェルディの『オテロ』3公演を歌うため、東京に参ります。指揮はマエストロ チョン・ミョンフン、私が2012年初めて『オテロ』をイタリアのヴェニスで歌った時に指揮をした方です。その翌年、フェニーチェ劇場制作の日本ツアーで再会し、2013年に日本各地を回りました。さらに2019年9月、英国ロイヤル・オペラ制作の『オテロ』日本ツアーに出演しましたので、今回、日本でヴェルディの『オテロ』を歌うのは3回目ということになります。

オテロという人物は、オペラ・レパートリーの中でもとても特別な人物で、テノールにとってはこの役を歌うことが夢です。まず音楽が素晴らしい。ヴェルディが書いた音楽は私に言わせれば全て素晴らしいですが、この人物はとても複雑で、私はその様々な面を引き出すのを楽しんでいます。妻デズデーモナとのロマンス、勇士としての堂々たる顔、そして嫉妬という側面。正気から狂気に至る心理的な破滅、そして最後には嫉妬により妻を殺してしまふ。そして、何よりもこの作品の音楽が信じられないほど素晴らしい。この作品を皆様のために歌うのを本当に楽しみにしています。

7月に日本に行けるのも楽しみです。ぜひ、チケットをご購入下さい。東京フィルによる3つの会場での公演です。ヴェルディの『オテロ』、きっと皆様に楽しんでいただけたと思います。皆様にお目にかかるのを楽しみにしています。どうぞ良い夏を、そしてまもなくお目にかかりましょう！

▶動画メッセージはこちらからご覧いただけます





音楽とドラマの融合を追求したヴェルディの傑作悲劇『オテロ』

打ちのめされる。

ヴェルディの『オテロ』は、筆者にとってそんな体験を最も多くもたらしてくれたオペラである。

フィレンツェで、ミラノで、ミュンヘンでそして東京で、何度『オテロ』に打ちのめされたことだろうか。『オテロ』は、音楽とドラマの融合を追求したヴェルディの総決算であり、全ての音が一瞬の隙もなくドラマと連動している奇跡的なオペラなのだ。

「打ちのめされた」経験のなかでもっとも忘れ難い一つが、2012年の晩秋、ヴェネツィアのフェニーチェ歌劇場で、マエストロ チョン・ミョンフンが指揮した『オテロ』である。マエストロがピットから客席に挨拶し、さっとオーケストラの方を振り向いてタクトを上げた途端、黄金のレリーフと「海の都」を象徴する水色に彩られた劇場の空間いっぱいに、荒れ狂う嵐の海が広がった。嵐をくぐり抜けて帰還した英雄オテロは、部下のイアゴの罠にはまり、妻デズデーモナの不倫を信じ込んで平静を失い、妻を殺して自ら命を絶つ。そのオテロの心を、マエストロ チョンはなんと美しく、切なく、劇的にそして繊細に描いていたことだろうか。

歌心と劇的瞬間の絶妙なバランス。それこそヴェルディのオペラにもっとも求められることだと思うが、マエストロ チョンほどそのことを理解し、実現できる指揮者は稀だ。

シェイクスピアはヴェルディにとって『人の心を知る偉大な師』

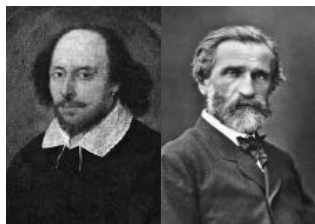
ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)は、「歌」の美を優先していたイタリア・オペラを「音楽によるドラマ」へと変えた立役者だが、音楽劇の創作にあたって彼が「師」と仰いでいたのがウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)だった。なぜなら彼が描きたかったのは人間の心であり、シェイクスピアは「人の心を知る偉大な師」(ヴェルディ)だったからである。ヴェルディの生涯の課題は、人間の心の葛藤を、「人間とは何か」を描くことだった。だからこそ彼はシェイクスピアに惹かれた。若い頃は、シェイクスピアの全戯曲をオペラ化したいと夢見たこともある。ヴェルディが初めてシェイクスピアの原作をオペラにしたのは『マクベス』(1847)だが、彼はイタリア人で初めて、シェイクスピアの原作から直接オペラ化した。だがその後『オテロ』まで実に40年、シェイクスピア作品のオペラ化は途絶える。ふさわしい台本作者が見つからなかったからである。『オテロ』は、ヴェルディがアッリーゴ・ボーイトという優れた詩人・作曲家・シェイクスピア通を得て、ほぼ半世紀ぶりに実現したシェイクスピア・オペラだった。

『オテロ』でヴェルディは、初めて一つの幕が途切れなく演奏されるオペラを創った。観客は冒頭から首根っこを掴まれてドラマに投げ込まれ、一気呵成に最後まで持っていられる。それを徹底的に味わうには、マエストロ チョンのようなヴェルディに通じたマエストロが必要なのである。

粒揃いの歌手が登場する『オテロ』

2012/13のマエストロ チョン指揮によるフェニーチェ歌劇場の『オテロ』が新鮮だったのは、歌手の起用も大きな理由だった。グレゴリー・クンデが初めてオテロを歌ったのだ。彼は今でこそヴェルディやプッチーニなどの“重い声”の役を主要レパートリーにしているが、当時はクンデといえ(軽いと思われる)ロッシーニ・テノール。その彼が、重量級であるドラマティック・テノールの究極とも言える『オテロ』を歌ったのだから、大きな話題になった。

だがこれは、ロッシーニを初めとするベルカント・オペラ(ドラマ性より歌の美しさを優先したオペラ)が復活している今だからこそ可能になったことだった。クンデが得



オテロ：グレゴリー・クンデ
©Chris Gloag

意にしていたのは、ロッシーニと言っても近年復活してきたオペラ・セリア(真面目なオペラ。「正歌劇」などと表記される)の、比較的重めのレパートリー。「ロッシーニのセリアからフランス・オペラを経てヴェルディの『オテロ』というキャリアは、『オテロ』の初演でタイトルロールを歌ったフランチェスコ・タマーニョも辿った道なのです」(クンデの言葉)。ならば重量級のテノールより、こちらの方が正統なのではないだろうか。

果たしてクンデの歌唱は、「新時代のおテロ」と呼ぶにふさわしいものだった。声の力で押すのではなく、精確でスタイリッシュでありながらドラマティック。何より、高音域がクリアで美しいのだ。

クンデのおテロは大評判となり、今や世界屈指の「おテロ歌い」の地位を獲得している。そのクンデに、マエストロ チョンとの共演で再会できるとは、なんとと喜ばしいことだろうか。これも雄弁な歌を歌うバリトンのダリボール・イエニス、ヴェルディ作品に情熱を注ぐ日本のプリマ小林厚子と、共演者も選り抜きだ。そしてもう一方の主演は、我が東京フィルハーモニー交響楽団。マエストロ チョンとの共演で数々の演奏会形式オペラを成功させ、新国立劇場その他のピットで幅広いオペラのレパートリーを披露してきた、日本を代表するオペラのオーケストラだが、やはり十八番はイタリア・オペラ。2008年、新国立劇場での『オテロ』も心揺さぶる名演だった。

全てが揃った今回の『オテロ』。ヴェルディとシェイクスピアというオペラ史上の奇跡が、理想のキャストで体現される。打ちのめされる一夜を、ぜひ体験していただきたい。



加藤浩子(かとうひろこ)／東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒業、同大学大学院修了(音楽史専攻)。大学院在学中、オーストリア政府給費留学生としてインスブルック大学に留学。音楽物書き。著書に『今夜はオペラ!』『モーツァルト 愛の名曲20選』『オペラ 愛の名曲20選+4』『ようこそオペラ!』(以上、春秋社)、『パッハへの旅』『黄金の翼=ジュゼッペ・ヴェルディ』(以上、東京書籍)、『ヴェルディ』『オペラでわかるヨーロッパ史』『カラー版 音楽で楽しむ名画』『パッハ』(以上、平凡社新書)など。著述、講演活動のほか、オペラ、音楽ツアーの企画・同行も行う。最新刊は『16人16曲でわかるオペラの歴史』(平凡社新書)。

〈公式HP〉<http://www.casa-hiroko.com/>

News & Information

ハートフルコンサート チケット残席わずか!

女優・ユニセフ親善大使で東京フィル副理事長でもある黒柳徹子のお話で、毎年8月15日に開催する「ハートフルコンサート」。歌手の森山良子さんをゲストに迎え、心温まるコンサートをお届けします。好評につき、残券状況はお問い合わせください。

日時 8月15日(火)14:00開演(13:00開場)
 会場 東京芸術劇場 コンサートホール
 出演 黒柳徹子(お話)／森山良子(歌)*／円光寺雅彦(指揮)／東京フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)
 曲目 エルガー／行進曲『威風堂々』第1番
 ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲
 寺島尚彦／さとうきび畑*
 ストラヴィンスキー／バレエ音楽『火の鳥』(1919年版)ほか



©下村一喜



©K.Miura

料金(全席指定) S席¥6,200 A席¥5,100円 B席¥4,100 C席¥3,600 車椅子席¥3,100
 お問い合わせ 東京フィルチケットサービス03-5353-9522(平日10:00～18:00)

オーケストラ・キャラバン～オーケストラと心に響くひとときを～
東京フィルハーモニー交響楽団 特別公演

日時 2023年8月20日(日) 15:00開演(14:15開場)
 会場 東広島芸術文化ホール くらら 大ホール
 曲目 チャイコフスキー／
 歌劇『エフゲニー・オネーギン』より ポロネーズ
 ワグスマン／カルメン幻想曲*
 服部良一／蘇州夜曲*
 服部克久／晩秋のアダージョ*
 服部隆之／Les enfants de la Terre～地球のこどもたち*『世界遺産』メインテーマ曲
 服部隆之／『真田丸』メインテーマ*
 ラフマニノフ／交響曲第2番 ホ短調 Op.27《ラフマニノフ生誕150年記念》
 出演 角田鋼亮(指揮)／服部百音*(ヴァイオリン)／東京フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)



©Hikaru Hoshi



©YUJI INAGAKI

料金(全席指定・税込) S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000 学生(大学生以下)¥1,000

お問い合わせ 東広島芸術文化ホールくらら 082-426-5900(9:00～19:00)

チケット問合せ 東広島芸術文化ホールくらら 082-426-5900(10:00～19:00)

インターネット <https://kurara-hall.jp/ticket/>



※学生券はくららインターネット・くらら電話・窓口のみのお取り扱い。公演当日は必ず学生証をお持ちください。

メンバー出演情報

三浦章宏、J.S.バッハを弾く。～無伴奏ヴァイオリンリサイタル～

東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターの三浦章宏が、深く敬愛し自身のライフワークに掲げるJ.S.バッハの無伴奏ヴァイオリン曲を奏でる音楽会。

日時 7月14日(金)19:00開演(18:30開場)

会場 かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール
(JR日暮里から京成急行3駅(各停7駅)「青砥」徒歩5分)

出演 三浦章宏(ヴァイオリン)

曲目 J.S.バッハ／無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第1番 BWV1001
無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 BWV1004
無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第3番 BWV1006

料金 ¥5,000(全席指定)

問合せ 陽向企画コンサート企画部Webサイト
<https://youkouconcert.studio.site/> (youkouconcert で検索)

※SNSアカウント(Twitter／Instagram／Facebook)からもお問合せいただけます。



©Yoshinori Kurosawa

トロンボーン奏者の平田 慎さんが定年退団されました。

トロンボーン奏者の平田 慎さんが2023年5月末をもって定年退団されました。東京フィル団員として最後の公演は5月28日「武満徹作曲賞 本選演奏会」(角田鋼亮指揮)でした。今後のご健勝とご活躍をお祈りしております。



©上野隆文

2023シーズン 今後の定期演奏会

112年目を迎えた東京フィルの2023シーズン定期演奏会、当楽団が誇るマエストロたちと次代を担う音楽家たちとともに大好評開催中です。「オペラの東京フィル」が誇る《オペラ演奏会形式》上演は、名誉音楽監督チョン・ミョンフンによるヴェルディの傑作『オテロ』（7月定期演奏会）。10月・11月も要注目の演目が続きます。お聴き逃しなく！

7
月

指揮: チョン・ミョンフン (名誉音楽監督)

第988回 7月23日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール第156回 7月27日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール第989回 7月31日(月) 19:00
サントリーホール▶
聴きどころは
こちらから

ヴェルディ／歌劇『オテロ』

オテロ: グレゴリー・クンデ
デズデーモナ: 小林厚子
イアーゴ: ダリボール・イエニス
ロドヴィーコ: 相沢 創
カッシオ: フランチェスコ・マルシーリア
エミーリア: 中島郁子
ロデリーゴ: 村上敏明
モンターノ: 青山 貴
伝令: タン・ジュンボ
合唱: 新国立劇場合唱団 (合唱指揮: 富平恭平)

1回券発売中

10
月

指揮: クロエ・デュフレヌ

(2021年プザンソン国際指揮者コンクール聴衆賞、オーケストラ賞)

ヴァイオリン: 中野りな*

(2022年仙台国際音楽コンクール優勝)

第157回 10月18日(水) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール第990回 10月19日(木) 19:00
サントリーホール第991回 10月22日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール

リリ・ブーランジェ／春の朝に

(リリ・ブーランジェ生誕130年)

サン＝サーンス／ヴァイオリン協奏曲第3番*
ベルリオーズ／幻想交響曲◀
聴きどころは
こちらから

1回券発売中

11
月

指揮: アンドレア・バッティストーニ

(首席指揮者)

チェロ: 佐藤晴真*

(2019年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝)

第992回 11月10日(金) 19:00
サントリーホール第993回 11月12日(日) 15:00
Bunkamuraオーチャードホール第158回 11月16日(木) 19:00
東京オペラシティ コンサートホール

チャイコフスキー／

幻想曲『テンペスト』

ロココの主題による変奏曲*

幻想序曲『ハムレット』

幻想序曲『ロメオとジュリエット』

(チャイコフスキー没後130年)

◀
聴きどころは
こちらから

1回券発売中

お問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

(平日10時～18時・土日祝日休／発売日の土日祝日は10時～16時)



午後のコンサート。2023シーズンのラインナップ

「午後のコンサート」2023シーズンは、4回セット券でご来場されるお客様が3シリーズで9割を超え、シーズンを通してオーケストラの名曲と音楽家のとっておきのお話をお楽しみいただいております。ただ今、販売中の1回券は残り僅か。皆様のご来場をお待ちしております。

渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

7月9日(日)

第18回

《コパケン・クライマックス》

指揮とお話:

小林研一郎

ヴァイオリン:

服部百音

※7月6日「平日の午後のコンサート」と一部同演目です。

予定枚数
終了



©山本倫子



©Yuji Inagaki

9月18日(月・祝)

第19回

《秋の大感謝祭》

指揮とお話:

角田鋼亮

ゲスト(ピアノ):

園田隆一郎、

三ツ橋敬子

1回券
発売中



©Hikaru Hoshi

©Earl Ross

11月5日(日)

第20回

《なんでもOKストラ!!》

指揮とお話:

円光寺雅彦

ピアノ:

清塚信也

※11月6日「平日の午後のコンサート」と同演目です。

1回券
8月発売



©三浦興一



©Yuji Takeuchi

※東急百貨店本店跡地の再開発に伴い、「渋谷の午後のコンサート」は当面の間、週末の開催になります。

平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00(託児可)

7月6日(木)

第30回

《コパケン・クライマックス》

指揮とお話:

小林研一郎

ピアノ:

中川優芽花(※)

※7月9日「渋谷の午後のコンサート」と一部同演目です。

予定枚数
終了



©山本倫子

8月7日(月)

第31回

《真夏の午後の夢》

指揮とお話:

出口大地

ピアノ:

清水和音

予定枚数
終了



©hiro.pberg_berlin

©Mana Miki

11月6日(月)

第32回

《なんでもOKストラ!!》

指揮とお話:

円光寺雅彦

ピアノ:

清塚信也

※11月5日「渋谷の午後のコンサート」と同演目です。

1回券
8月発売



©三浦興一



©Yuji Takeuchi

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00(託児可)

9月3日(日)

第98回
〈コパケンのベートーヴェン!〉

指揮とお話:

小林研一郎

ピアノ:

中川優芽花(※)

予定枚数
終了

©上野隆文

12月3日(日)

第99回
〈クリスマス in ニューヨーク〉

指揮とお話:

円光寺雅彦

ヴァイオリン:

廣津留すみれ

1回券
8月発売

©K.Miura ©Ryuto Kurokawa

曲目等詳細は東京フィルウェブサイトをご覧ください。

※7月6日、9月3日公演のソリストが当初発表から変更となっております。

またソリストの交代に伴い、9月3日公演の楽曲が一部変更となりました。

詳しくは東京フィルウェブサイトをご参照ください。

午後のコンサート。 2023シーズンの発売スケジュールについて

◆7月・8月・9月3日公演 予定枚数終了

◆9月18日公演 1回券発売中

◆11月・12月公演1回券の発売スケジュール

最優先※お電話のみ(賛助会員様、定期会員様)	8/22(火)10:00
優先※お電話のみ(東京フィルフレンズ会員様)	8/26(土)10:00
優先(WEB優先発売)	8/26(土)10:00~9/4(月)23:59
一般発売	9/5(火)10:00

チケット料金	S席	A席	B席	C席
1回券(定価)	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
(東京フィルフレンズ会員)	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※1回券は4回セット券の販売後、残席ある場合のみ販売いたします。

すでに残席が少ないシリーズやセット券で完売している席種もございます。詳しくはお問合せください。

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522(平日10時~18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時~16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>

Photo Reports 2023年4～5月の演奏会より

4月・5月は人気シリーズ「午後のコンサート」のシーズン開幕3公演、提携都市である軽井沢町の町制100年を祝う軽井沢大賀ホール2023春の音楽祭、そして特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフによるラフマニノフ生誕150年を寿ぐ5月定期演奏会と華やいだ公演が続きました。

写真＝上野隆文(4/15、5/10)

第96回 休日の午後のコンサート 〈クラシックの車窓から〉(4/15)

指揮とお話：和田一樹 サクソフォン：上野耕平*
ゲスト：酒井 格(作曲家)
コンサートマスター：三浦章宏

J.シュトラウス／ボルカ『観光列車』
オネゲル／『機関車パシフィック231』
酒井 格／シーサス・クロッシング*

【ソリスト・アンコール】ポノー／ワルツ形式による
無伴奏カプリス

和田一樹／京王ライナーオリジナルBGM
「K05000」(ヴァイオリン独奏：三浦章宏)
ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』

【オーケストラ・アンコール】和田一樹／京王ライ
ナーオリジナルBGM「K05000」(サクソフォ
ン独奏：上野耕平)

協力：京王電鉄株式会社



京王電鉄株式会社様のご協力により、マエストロとソリスト上野耕平さんが鉄道マンの制服を着て登場。会場が笑顔に包まれました

第29回 平日の午後のコンサート 〈春のイチバン〉(5/1)

指揮とお話：角田鋼亮 ピアノ：五十嵐薫子*
コンサートマスター：依田真宣

モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲
リスト／ピアノ協奏曲第1番*

【ソリスト・アンコール】シューマン(リスト編)／
献呈

シューマン／交響曲第1番『春』
エルガー／行進曲『威風堂々』第1番

【オーケストラ・アンコール】チャイコフスキー／
弦楽セレナードより第2楽章“ワルツ”



昨年ジュネーヴ国際コンクールピアノ部門に入賞した五十嵐薫子さんが登場。マエストロ角田との楽しいお話と入魂の演奏をお届けしました

軽井沢町制施行100周年記念【軽井沢大賀ホール2023春の音楽祭】

●期待の指揮者とチェリストのオープニングを飾る共演 !!

指揮：角田鋼亮／チェロ：上野通明(4/29)

●世界の巨匠の指揮とヴィオラ、気鋭ヴァイオリンと至高の協演!!

指揮とヴィオラ：ピンカス・ズーカerman／ヴァイオリン：三浦文彰(5/4)

第17回 渋谷の午後のコンサート 〈マエストロ・ズーカerman〉 (5/7)

指揮とヴィオラとお話：

ピンカス・ズーカerman

ヴァイオリン：三浦文彰*

コンサートマスター：三浦章宏

モーツァルト／歌劇『魔笛』序曲

モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラの
 ための協奏交響曲*

ベートーヴェン／交響曲第7番



「ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲」はズーカerman氏の「弾き振り」と三浦文彰氏のヴァイオリンでお届け。メインプログラム終了後にマエストロの熱いトークが繰り広げられました。お話のレポートは東京フィルの公式 SNS でもご覧いただけます

5月定期演奏会 (5/10、12、14)

指揮：ミハイル・ブレトニョフ(特別客演指揮者)

コンサートマスター：依田真宣

〈ラフマニノフ生誕150年〉

ラフマニノフ／幻想曲『岩』

ラフマニノフ／交響詩『死の鳥』

ラフマニノフ／交響的舞曲



ピアニスト・作曲家・指揮者として、マエストロブレトニョフの偉大な“先輩”にあたるラフマニノフの生涯をたどる3つの管弦楽作品をお届けしました



入魂のプログラムを披露したマエストロ。カーテンコールでは笑顔でオーケストラメンバーをねぎらいました

Viva a Ópera, Viva a vida!

東京司法書士協同組合
理事長
倉石 裕子



東京フィルゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第18回は、2022年に創立50周年を迎えた東京司法書士協同組合の理事長を務める倉石裕子様。パートナー会員として東京フィルをご支援いただいています。ブラジル・マナウスでの思い出やオペラとの出会い、楽団員との交流を綴っていただきました。



密林の中、アマゾン川を下るボート。乗っているのはルチアーノ・パヴァロッティ。1995年、ブエノスアイレスでのコンサート翌日、100年前にカルーソーが歌った劇場を訪ねたいと、ブラジル・マナウスのオペラハウス「アマゾナス劇場」に向かう……パヴァロッティの人生を追ったドキュメンタリー映画『太陽のテノール』（2019年）のワンシーンです。

私は20代の7年間、旅行社の仕事を時折手伝いながら、マナウスに暮らしていました。19世紀にゴム景気で栄えた大都会です。当時建設されたのがアマゾナス劇場。フランスのオペラ劇場を模したルネッサンス様式の建物で、中に入ると美しい天井に目を奪われます。ここはマナウスの重要な観光スポットでもあり、私も日本からの観光客をよく案内しました。残念ながら、わたしの在住中はずっと修復中だったのでオペラ公演はなく、街にあふれるサンバばかりを聴く日々でしたが。

しかし最近、オペラにハマっています。交友のある東京フィルメンバーからお誘いを受けて、定期演奏会に行くようになったことが

アマゾナス劇場は外観のみならず劇場内の装飾も
きらびやか

©A.Kajisako



きっかけです。2018年5月の『フィデリオ』（演奏会形式）では感動し、ドン・フェルナンド役のバリトン歌手・小森輝彦さんのファンになりました。そして、同じく東京フィルが演奏する新国立劇場オペラ『ドン・パスクワレ』が、オペラの虜となる決定打に。今やエレベーターで一人のときなどは、『ハバネラ』を歌い上げ、高音を出すことは喉を鍛え誤嚥予防にもなると悦に入っているほどです。

また、クラシックの魅力を知ってもらえたらと思い、東京フィルメンバーとのミニコンサートを企画してきました。多彩なアーティストをお招きしてのオペラ・アリアコンサートや「アメイジング・グレース」の胸に沁みる演奏は思い出深いです。

この映画の最後に、パヴァロッティは「どうかわたしを愛し続けてくれ。今日は愛せなくても明日がある」と語っています。名劇場のそばに暮らしていながらオペラ愛には遠かったブラジル時代の私に伝えたい言葉です。愛と音楽に満ちた世界であることを願います。そして、微力ですが東京フィルハーモニー交響楽団と音楽活動を応援し演奏会に通い続けたいと思います。



過去のミニコンサートでは、ソプラノ・木下美穂子氏、バリトン・小森輝彦氏をゲストに迎え、辻博之氏の指揮のもと、東京フィル楽団員の近藤（コンサートマスター）、古田、山内、吉岡らが演奏に参加した

倉石 裕子（くらいし ゆうこ）／神奈川県生まれ、上智大学外国学部卒業。ブラジル・マナウス在住中は、ATSTUR社にてインバウンドやチケット手配など幅広い業務を行う。現在、東京司法書士協同組合理事長。司法書士。

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃、

皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと存じます。

今月も先月に引き続き、ラフマニノフ生誕150周年に因んだ

楽曲をお届けいたします。

マエストロと新鋭のピアニストが紡ぎ出す音色をぜひご堪能ください。

引き続き、当楽団を何卒よろしくお願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 COO 兼 CFO	十時 裕樹
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 会長 樫尾 和宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	サントリーホールディングス(株) 代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)
代表執行役 社長 COO 兼 CFO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 萩本 友男

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 高橋 和夫

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長 日覺 昭廣

TOPPANエッジ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 山本 修司

(医)エレルソ たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一社)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 眞吾

(株)トレミール
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年（明治44年）に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いっそうの発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行（郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人
三井住友銀行・ 東京公務部(096)	普通預金 3003239	東京フィルハーモニー 交響楽団

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

東京フィル 賛助会 会員募集中

2023年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立112年を迎えました。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後とも社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
パートナー会員	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリュード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた}鹿文)

電話: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp



皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演事業)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022(令和4)年度の「文化芸術による子供育成推進事業」では、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度も6月から12月にかけて、小中学校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催する予定です。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にさせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時／土日祝休)

5月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

甘粕 典子、橋本 有子、樋口 順子、吉峯 裕毅、大浦 英樹 (ほか匿名希望9名)

(五十音順・敬称略)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンラインワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	辻 姫子○ Himeko Tsuji	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柊一郎 Shuichiro Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	五箇 正明 Masaaki Goka	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri		田場 英子 Eiko Taba		
大内 麻史 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	テューバ Tubas	ステージマネージャー Stage Managers
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi	荻野 晋 Shin Ogino	大田 淳志 Atsushi Ota
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	古谷 寛 Hiroshi Furuya
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa		林 直樹 Naoki Hayashi			
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	フルート Flutes		トランペット Trumpets		
	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	ファゴット Bassoons	川田 修一◎ Shuichi Kawata	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	野田 亮◎ Ryo Noda	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	秋田 孝訓 Takanori Akita	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	木村 達志 Tatsushi Kimura	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa	前田 寛人 Hirohito Maeda	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		森 純一 Junichi Mori		中村 勇輝 Yuki Nakamura	
				縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
				船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フオアシュピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルバスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

東京フィルWEB



役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉2023(令和5)年6月23日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歌文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

～コンサートをお楽しみいただくために～

♪チケットの座席番号もチェック！

- ・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

♪開演時間もチェック！

- ・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、かたくお断りいたします。
楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
- ・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

♪開演前に、お手元のお荷物や電子機器もチェック！

- ・許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- ・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
- ・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
- ・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

♪演奏中に気を付けたいことも同時にご確認も！

- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

当団の実施する新型コロナウイルス感染症予防対策について

- ・会場内でのマスク着脱はお客様ご自身の判断に委ねます。
- ・会場内でブラボー等の声援をされるお客様にはマスクの着用を推奨いたします。
- ・発熱等の体調不良のお客様にはご来場を控えていただきますようお願いいたします。
- ・会場内では咳エチケットおよび手指消毒の実施をお願いいたします。

客席内は十分な換気を行っております。

ご協力、誠にありがとうございます。

Tokyo Philharmonic Orchestra
Season 2023



こころの時間